

# 第 1 2 回黒部川ダム排砂評価委員会開催結果

## 開催要件

開催日時 平成 1 4 年 3 月 2 8 日 ( 木 ) 13 : 00 ~ 15 : 00

会 場 富山市於、富山全日空ホテル 3 F 「鳳」

出席者

委員長 高倉盛安 元富山県立短期大学学部長 ( 環境 )

委 員 大熊 孝 新潟大学工学部教授 ( 河川工学 )

竹内 章 富山大学理学部教授 ( 海洋地質学 )

田中 晋 富山大学教育学部教授 ( 生物学 )

中村弘二 富山県水産試験場長 ( 漁業 )

広瀬慎一 富山県立短期大学部教授 ( 利水工学 )

藤井昭二 富山大学名誉教授 ( 地質学 )

安永義暢 日本海区水産研究所長 ( 水産増養殖 )

楠井隆史委員 ( 富山県立大学短期大学部教授、環境 )

本城凡夫委員 ( 九州大学農学部教授、水産増殖環境学 ) は欠席

顧 問 柳田友道 東京大学名誉教授、富山大学名誉教授

事務局 北陸地方整備局河川部

関西電力株北陸支社

## 議 事

平成 1 3 年度連携排砂に伴う環境影響調査結果について

平成 1 3 年度海域底質追加調査について

平成 1 4 年度連携排砂計画 ( 案 ) について

平成 1 4 年度連携排砂に伴う環境影響調査計画 ( 案 ) について

その他

## 委員の評価及び意見

平成 1 3 年度連携排砂に伴う環境影響継続調査結果について

【評価】

本調査からは、特に問題となるような現象は認められない。

【主な意見】

- ・ 海域底生生物の平成13年度の排砂前後のデータを見ると種類数、個体数とも急激な変化をしているように見えない。

平成13年度海域底質調査追加調査について

【評価】

本調査からは、特に問題となるような現象は認められない。

【主な意見】

- ・ 硫化物のあった地点の泥温が比較的高く見える。
- ・ 泥温が際だって高いとは思われない。硫化物との関係で重要なのが酸化還元電位ORPで、これは酸化的環境にある。全体的に硫化物とORPは相関関係がない。

平成14年度連携排砂計画（案）について

【評価】

平成14年度連携排砂計画（案）については、妥当と考えられる。

【主な意見】

- ・ できるだけダム貯水池に土砂を貯め込まないことが基本であり、通砂回数の上限はあえて設けなくても良い。
- ・ 水温が低く流量も多い融雪期に排砂を行う方がベターではないかとも考えられ、排砂できない年が続けば、将来的に融雪期の排砂を考慮に入れた基準流量の見直しも検討する必要があるのではないか。
- ・ 融雪期の排砂については、農業、漁業、環境に対する影響の詳細な検討と地域の理解が必要であり、排砂の基準を安易に下げることが避けてほしい。

平成14年度連携排砂に伴う環境影響調査計画（案）について

【評価】

平成14年度連携排砂に伴う環境影響調査計画（案）については、妥当と考えられる。

【主な意見】

- ・ 排砂を行っていない出水時の環境調査については賛成。
- ・ 既往の調査結果であまり変動のない地点を整理し、代わりに必要性の高い調査を充実させることに賛成。

今後のデータ整理に関する委員の意見

- (1) 過去からの水生生物調査成果を整理し、環境の変化を示す指標について検討してほしい。
- (2) 海域底生生物の組成の変化がわかるようにデータを整理してほしい。
- (3) 富山県等の他機関で実施した調査データを参考にするのも1つの方法である。